

平成 2 2 年度学校評価表

熊本県立八代農業高等学校

1 学校教育目標
「礼節」「勤労」「誠実」の校訓のもと、人格の完成をめざし社会に貢献できる有為な人材を育成する。 めざす生徒像 「礼節」：端正な服装と礼儀正しい生徒 「勤労」：目標達成に向けて努力する生徒 「誠実」：自立心を持ち誠実に行動する生徒

2 本年度の重点目標
(1) 学習指導の充実による確かな学力の育成 (2) 生徒指導の充実による豊かな心の育成 (3) 進路指導の充実による進路目標の達成 (4) 特色ある学校づくり (5) 創立 9 0 周年の記念行事を通して、創設時の教育にかける熱い思いと地域の期待に今一度思いを馳せる。

3 自己評価総括表						
	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校 経営	学校教育目標の共有	・学校の教育目標及び重点目標の周知徹底 ・90 周年記念行事への積極的な取組	・職員・生徒・保護者に説明し、生徒・保護者 8 0 % の周知を目指す。 ・90 周年行事の成功を目指す。	・職員会議、全校集会、PTA 総会、PTA 新聞等で周知する。 ・周年行事の目的を周知する。	B	概ね共有は出来ているが周知徹底には至っていないと思われる。 9 0 周年行事をとおして情報発信が出来た。
	特色ある学校づくり	・開かれた学校づくり	・文化祭、グリーンフェスタ等学校行事を地域に開放する ・公開研究授業の年 2 回実施	・地域への広報、情報提供により参加を促す ・関係中学校へ案内する	B	学校開放の目的は達しているが、工夫が必要。 公開授業は PR 不足であった。
		・地域との連携	・関係機関との連携を強化する	・小学校や中学校、地域の関係機関との連携を図る。	C	地域との連携は出来たが、小中学校との連携を深める必要がある。
学力 向上	確かな学力の育成	・学習習慣の確立	・生徒に毎日家庭学習をさせる	・良質の課題を提供し家庭学習記録簿に記入させ家庭学習実態調査を行う	B	学習習慣の確立は地道に、課題や確認テストを継続していく。家庭学習の指導に工夫が必要である。
		・適正な学習評価の実施	・学習評価規定の改善について検討する	・定期的に検討会を実施する	A	考査終了ごとに成績会議を実施し、評価規定等検討重ねている。
		・自ら学ぶ意欲の喚起	・年度当初にシラバスを配布できるように準備する	・12 月までに全教科、科目を完成させる	B	シラバスは完成したが、利用状況、生徒の学ぶ意欲の評価に課題がある。
		・受動的学習形態から能動的 研究活動への転換	・課題研究を中心とする専門教育指導体制を整備する	・専門教科担当者を中心に 12 月まで全体計画を完成させる	C	新教育課程の検討と併せて検討しているが、さらに職員の意識向上も必要である。
進路 指導	組織的な進路指導	・計画的な進路指導	・基礎学力の充実	・学力ベーシック、学力スタンダードの実施	B	進路指導部・教務部との連携がなされているが、学年部との連携がさらに必要。
		・進路意識の向上	・進路相談を年 3 回以上行う	・個人面談や三者面談によって家庭と連携し生徒の希望把握に努める	A	3 年では達成できているが、1・2 年での取組が必要。キャリアポーターの働きも大きい。

	勤労観・職業観を育てる指導	・自己実現への意欲	・各学年2回以上進路講話を実施し、進路意識の高揚を図る	・外部講師による講話の他卒業生による進路ガイダンスを実施する	B	外部講師、校外が「タ」の活用は一定の効果があった。各学校行事との連携が課題。
		・主体的な進路選択	・進路学習環境を整え、進路情報提供の充実を図る	・進路閲覧室のより一層の充実を図る	A	進路指導室の充実や、求人票のWEB化等環境は整ってきた。さらなる有効活用に期待。
生徒指導	規範意識の高揚	・校則の遵守・基本的生活習慣の確立	・挨拶、時間を守る、整容、言葉遣い、社会（交通法規を含む）ルールの遵守	・登校指導、HR、授業、体育館での全体指導、交通教室の実施	B	継続的な指導で生徒の意識も向上しつつある。今後は家庭との連携を協力を得て目標到達を目指す。
		・全職員共通理解による指導の徹底	・生徒指導部提案の指導方針の厳守	・職員研修の実施、生徒部、学年部、学科との連携	B	職員共通の理解は得られているが、実践には至っていない。意識の改革が必要。
	中退者対策（学習支援事業）	・学校生活への適応	・中途退学者数の前年比50%減	・担任、各部の協力による生徒理解、学習・生活指導、家庭との連携	B	今年度の取組によりほぼ目標は達成されたが、さらに組織的な取組・情報の共有により減少を目指す。
		・個々の生徒に対するきめ細やかな指導の確立	・個々の生徒の実態把握	・生徒カルテの作成	B	生徒カルテ作成の必要性も認識され、準備は進んでいるが、個人情報管理等の課題もあり、併せてルール作りも必要である。
人権教育の推進	自他の良さを認めあえる人間関係の育成	・人権意識の啓発	・生徒・保護者・職員の人権に対する意識を向上 人権教育の充実	・外部研修への参加 ・校内研修の実施 ・人権教育講演会の実施	B	具体的な行事内容については実施されている。しかし、目標達成に至っているかについて疑問である。さらに、内容等について検討が必要。
		・教育相談の充実	・いじめ等の問題を抱える生徒の把握	・クラスアンケート、個人面談等による問題生徒の把握、教育相談の実施	B	アンケートや面談が実施され、効果も認められる。今後の対応として、教育相談の活用について、生徒・保護者へのPRが必要である。
専門教育	プロジェクト学習を中心とした専門教育の充実	・学習から研究へ研究成果を地域へ発信できる学習の展開	・学年ごとに成果発表会を行う	・生徒の学習目標の設定	A	計画的に実施することが出来た。内容の充実や地域への発信についてさらに深める必要がある。
		・福祉の心の涵養 ・家庭科に関する知識及び技術の習得	・資格取得の推進 ・学校家庭クラブ活動の活性化 ・プロジェクト学習の充実	・外部講師招聘による専門性の強化 ・課題研究の充実 ・家庭科技術検定の充実	A	実施した内容について昨年より深めることが出来た。実施できなかった項目もあり、計画の検討が必要。
	高い専門性と職業観の育成	・専門性を向上させる取組の強化	・農業技術検定等の資格取得の推進 ・新学科におけるインターシップの在り方の検討	・先進地視察 ・インターシップの充実	B	インターシップや資格取得に取り組むことが出来た。しかし、実施に向けての計画や生徒の意識付けが不十分であり、今後の課題である。
		・早期進路目標の設定	・インターシップによる体験学習	・インターシップの実施		専門教科でのキャリア教育への取組が課題で

		・キャリア教育の推進	・進路指導の強化と職場開拓	・卒業生による講演会	B	ある。そのための職場開拓等職員の意識改革も必要。
安全管理	施設・設備の充実	・施設・設備の安全の強化	・生徒・職員が安全で安心して暮らせる学校	・毎月の安全点検の実施・職員室や準備室の巡回	A	職員間の連携もあり、危険箇所の早期発見と対応がなされている。
道徳教育	道徳性を涵養する	・全体計画にもとづく教育活動を進める	・90周年記念式典をとおして愛校心・愛郷心等を高める	・機会を設けて校訓、校歌等についての指導を充実させる	B	90周年行事に向けた様々な機会を据えて教育活動の実践が出来た。
		・各部・各学科・各教科等での具体的な教育実践を行う	・道徳性の涵養を目指すホームルーム活動や授業を展開する	・ホームルームや授業等で道徳性の涵養を意識した実践を工夫する	C	全体計画に基づく各部・各教科の指導計画は出来たが、実践が不十分であった。
保健管理	健康に関する体制整備	・規則正しい生活・食生活の習慣化	・保健だよりを通じて基本的な健康知識の周知 ・食生活の健全化と朝食の摂取率100%を目指す。	・薬物乱用、性教育講演会の実施 ・保健部、食育教育との連携。	B	講演会等を受けて、HR、授業等で工夫・実践された。食育についての取組・実践が、不十分で課題である。
		・保健相談の充実	・各学年との情報交換と早期対応	・各月毎の来室者統計の担任配布と個別面談の実施	B	個別の生徒情報が、随時連絡があり、活かされた。
環境教育	環境調和型社会の実現	・環境保全活動 ・エコスクール活動 ・学校版環境ISO ・校内美化	・環境保全活動の重要性を周知 ・学校全体の光熱費16年度比5%減を目指す。 ・環境改善を宣言項目達成 ・校内美化の徹底を目指す。	・各科で環境保全活動を実施 ・学校全体で省エネを実施 ・各クラスで宣言項目を実施 ・校内美化コンクールを実施	B	取組がなされ、その効果も高まっているが、環境意識・エコ意識の高揚については、さらに、新たな具体的な手立てが必要である。

4 学校関係者評価

今年度の90周年記念式典の態度は立派であり、公開授業も見学したが、規律ある展開がなされ、指導の徹底が伺えた。遅刻数の減少など数値的評価が現れ「継続は力なり」と感じる。農業は厳しいと言われるが、「明るい農業」「夢を与える農業」「農業の楽しさ」等を発信する教育を期待している。他産業等との連携等いろいろな取り組みにより可能性を広げてもらいたい。八代農業高校の進路が多岐にわたり、就職の職種、進学の可能性について知らないといわれる。さらに学校のパンフレットのレイアウト等工夫し、PRに力を入れて、学校を理解してもらうよう努めて欲しい。生徒の育成には学校・保護者・地域の連携が大切であるので、協力を呼び掛け、ともに生徒を育てていきたい。

5 総合評価

今年度90周年という周年行事の取り組みの中で、学校歴史や本校の役割等生徒・保護者・職員ともに学ぶ機会となった。また、式典を立派に成功させ評価を得たことで、生徒も学校に対する誇りも芽生えたと感じる。しかし、数は減少したとはいえ、進路変更等で学校を離れていったことは深刻に受け止め、さらなる対応が必要である。保護者・地域の協力も得られ、徐々にではあるが評価されるようになり、生徒の進路実現にむけての目標値も達成しつつある。また、色々なメディアで本校の教育活動を紹介して戴き、生徒達は学ぶ喜びを感じるようになった。個々の職員の頑張りによるところが大きく負担感も増加しているので、組織的な取り組みができる校内組織の構築が急務である。【総合評価B】

6 次年度への課題・改善策

「礼節」「勤労」「誠実」の校訓のもと、人格の完成をめざし社会に貢献できる有為な人材を育成するという、教育目標の達成を目指して取り組んでいく。集団生活のなかで規範意識を尊重し、義務や責任を果たし自立した生徒を育てるために、職員が共通理解と認識を持ち、タイムリーな指導を行う。基礎学力を身につけ進路実現を目指すために、わかる授業と実力のつく授業展開に取り組む。人権意識を持ち、道徳教育の推進と特別支援教育の充実に取り組む。来年度は学科改編を行い完成年度むかえる。指導内容の精選を行い、魅力ある教材研究を行い、本校のテーマである「学習から研究へ～研究成果を地域へ～」を実践していく。校務分掌の見直しを行い、職員の負担感軽減を図る。